



ふくおか【Good👍】農業人100  
 主な農産物／イチゴ(あまおう)

# 山下 理江さん (27歳) (営農地／田川郡川崎町)

## 観光農園で消費者と接して得られる充足感

《就農のきっかけ》

### 両親がイチゴ栽培を始めて

子供の頃から植物が好きで、樹木医を目指していた山下さんは、大学の農学部を卒業後、熊本県の造園会社に就職しました。そして、造園業に従事するうちに、農家が行っている植物の病気治療の技術レベルが高いことを知り、農業にも興味を持ち始めました。

一方、その頃、山下さんの両親が川崎町大ヶ原の土地を購入しました。当初は父親が退職後に建設機械のリース業を行う予定でしたが、近所で農業をしていた従弟(観光果樹園とレストランを経営)の勧めを受けイチゴを作ることに決めたそうです。農業は全くの素人でしたが、母親が近隣農家へイチゴ栽培の勉強に行く等、両親のやる気は十分でした。しかし、両親の負担も大きく、山下さんは帰ってきて農業を手伝うようお願いされました。

こうして山下さんは、2年間の造園業生活にピリオドを打ち、農業の世界に足を踏み入れたのです。

《これまでの過程》

### 観光農園が盛況で生産が追い付かない!

購入した土地は鶏舎の跡地。雑木を伐採し、ぼろぼろの鶏舎を修繕・改造したイチゴハウス11aで営農を開始しました。1年目、従弟の経営する農家レストランとタイアップする形で観光農園「ラピュタファームいちご園」として営業開始。イチゴは高設栽培で、車椅子でも利用できるように、栽培ベンチの間隔を広く取り、バリアフリーな設計が特徴です。

2年目、観光農園は思いのほか盛況で、イチゴの収量が想定より少なかったため、需要に供給が追い付かなくなり、資金を活用してハウスを16aに増設しました。これを契機に山下さんが実質の経営主となり、4年目の今では栽培管理も山下さんが中心で行っています。

イチゴの収量向上と生産量の安定は未だに大きな課題です。「イチゴ栽培は花粉を運ぶミツバチとうまく付き合っていかなければならないのが難しいですね。また、農薬を出来る限り使わない方法



プロフィール

- 家族構成／祖父、父、母、本人 ■前職／造園業
- 営農年数／約4年半 ■従業員数／1名
- 耕作(経営)面積／16a ■販路／観光農園、直売所、直販

で栽培しているので、病気に悩まされることもありますが、お客さんにいつでも安心して食べてもらえるのが一番だと思っています。」

《これからの展望》

### お客さんのために出来ることを考える

「目下の目標は、イチゴの栽培技術を向上させて、目指せイチゴの売り上げ600万円!お客さんの需要に完璧に応えられるようにするためには、将来的にもう1棟イチゴハウスを増やしたいです。」と語る山下さん。いつでもお客さんのために考えています。「ここに来たお客さんが楽しく充実した一日を過ごして帰れるように残りの土地を活用したいです。牧場とか宿泊施設とか色々考えてますが、両親とじっくり話し合っていて進めていきたいです。自然が多いこの場所では時間がゆるやかに進んでいる印象。ゆっくり、じっくり、自分のペースで考えていきます。」



### Good👍 成功のためのポイント

私は気持ちに余裕を持つように心がけています。作物をよく観察して、じっくり考える時間を持つことが、栽培技術や減農薬のヒントになっています。生き物が好きなことが第一ですが、自然と向き合っていて気持ちの余裕を持つことも大事だと思います。